

西中学校区 保幼小中連携通信

グローイングアッププラン 2年目 [点を明確にするブロック連携]

第6号 平成30年12月10日 発行責任者 吉岡 上垣内 加藤

～西中校区合同授業研の振り返り～

西中校区合同授業研にご参加いただきありがとうございました。成績処理、個人懇談前という、学期末の多忙の中、行われた研修会でしたが、たくさんの先生方から、実りのある研修会だったと感想をいただきありがとうございました。今年度は、道徳の授業を西中校区で研究していこうと1学期の西中学校に続いて、春日・畑田・郡小学校で5年、3年、1年の道徳の授業を行いました。それぞれの学校での授業研及び研究討議会の感想をまとめました。

1. 道徳の授業について

(春日)

- ・ストーリーをしっかり押さえ理解する手立てができていてよかった。
- ・板書が見やすく、ワークシートを書くときのヒントになっていて良かったです。
- ・内容項目については、「公正公平」と関連が少しずれていたのではないかと思います。
- ・小学生はいろいろな考えが出て、めあてに導いていくのはすごく難しいなと思いました。子どもたちの意見で切り返したりするのは教材を本当に理解していかないと難しいなと感じさせられました。
- ・身近な内容で子どもたちの素直な気持ちがよく出ていた授業だったと思います。進行や授業の進め方が参考になりました。
- ・2つのクラスでアプローチの違う授業で興味深かったです。3年生という成長段階でどこまでの他者とのかわりが経験しているかによっても差があると思うので、難しいと感じました。また、どこまで本音が出せるかも難しいテーマでした。もう一時間あるならば、感想返しをしながら本音にせまれるかなと思いました。
- ・一番最後の話し合いができてさらに内容項目にせまれていたと思いました。
- ・子どもたちが自分に置き換えて考えられるような発問をされていて参考になりました。
- ・めあてを書かないと主題にせまりにくいのではと感じました。
- ・中学校では上手に感想や振り返りを書いている人も生活には結びついていないので行動に結び付く理解とはどうすればいいのか？と思いました。



(郡)

- ・道徳の授業を見ることができてよかった。単発にならず続けて取り組むことが大切だと感じた。

- ・子どもたちにとって身近な題材を取り上げていたので、生き生きと興味を持って取り組んでいた。
- ・子ども一人ひとりが一つの発問に対してしっかり考え、自分の意見を答えることがすごくよかった。話し合いの仕方がしっかりできていてよかった。



- ・1組では児童がよく知っているノンタンをうまくTVに映して興味を引かせていてとても面白かった。ノンタンを使って心情を理解させ、上手く自分のことに返していたので、上手だなと感じた。最後の「どうして、そうなの?」という質問で、小1の児童でもしっかり頭の中で考えられていたのがすごいと思った。
- ・1年生の道徳の授業とても興味がありました。去年悩みながら授業していました。今日、聞くことをメインに、たくさん子どもたちから意見が出て、一生懸命思いやりについて子どもたちが考えていました。今後の授業づくりの参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- ・子どもたちが活発に発言していて、親切・思いやりとは何か考える事ができていました。子どもたちにとって実りある45分になったのではないかと感じました。
- ・1年生の子どもたちにとって、アンパンマンの話は分かりやすくよい教材だった。たくさん発言できた素直な子どもたちの授業を見せてもらえて、とても参考になりました。6年生に給食当番を手伝ってもらう写真があって、わかりやすく実際にいろいろ手伝ってもらっているので、今の時期にこの教材で良かった。
- ・45分の中で、「アンパンマン」の読み聞かせ、6年生のビデオメッセージ、書く時間とても盛り沢山でしたが、少しずつ「本当のありがとう」にせまっていたと思います。助けてくれる人→郡小内では→6年生は→どんなことを…と焦点づけの流れがありました。「気持ち」も交流できたら色々な意見が出たのではないかと思います。
- ・他校の先生の授業や子どもの様子を見られるのは勉強になるし、「この学校の子どもたちが、自分の学校の子どもと西中で一緒になるのか」と考えた時、雰囲気なども知る手掛かりになります。(畑田)
- ・授業の内容では、自由とは何かを考え、普段の生活ではどうか?など子どもたちの実生活を振り返らせる場面も必要だったのではないのでしょうか。また、子どもたちがグルーピングで出した意見をもっと子どもたちの言葉で交流させた方がよかったのではないかと思います。
- ・子どもたちに身近な駐輪場を取り上げていて、子どもたちが想像しやすい発言しやすい雰囲気を作られていたと思います。
- ・「人のことを考えて行動する」ことの大切さを理解できる」という目標は達成できていたと思います。一方で、自分の行動を見直すという点については少し浅かったように思いました。
- ・社会の構図のような題材であえて文章を見せないことで、より考えが深められたように思います。
- ・自由にはルールや他人の思いやりが必要である…という結論は良かったが、他人への思いやりを具体的に考えさせてルールへと導いてもよかったのでは。
- ・自由というテーマが難しい。
- ・内容としては、子どもたちにとっては、当たり前のように分かっていることなのかな?とも感じま

した。その部分をさらにゆさぶられたらと感じました。

- ・導入からシンプルでわかりやすく、落ち着いて子どもたちが学んでいる姿に感動した。最初に「自由」について考え、1時間交流しながら学んだあとに「自由とは？」と問いかけられると、明らかに子どもたちの中に大きな変容や気づきがあったことが、子どもたちの表情から明らかだった。

2. 研究討議会の感想

(春日)

- ・教材研究をもっとしっかりしていこうと思います、有意義な時間をありがとうございました。
- ・道徳の授業の中で大切なことや展開の仕方など様々な意見を聞くことができてよかったです。
- ・資料を熟読し発問をしっかり考えたうえで、子どもたちの考えている内容をさらに深く掘り下げている大切さを知ることができてよかったです。
- ・とても参考になりモヤモヤしていたものがすとんと落ちるお話も聞けて良かったです。
- ・小学校で悩みながら授業されている様子を知り、来年度までに校内論議をしっかり進めていかなければならないと思いました。人ごとに考えている教員も中学校にはまだまだいるなかで心配になりました。教科書を読んで意見を書かせておしまい・・・ということになりはしないかと心配です。
- ・「幸せになるための生き方を考える」という言葉が印象です。子どもたちも正しく生きるために学んでいると思っている人もいますので、「幸せになるための生き方をするため」という視点が広まったら道徳の授業が少し楽しくなると思います。
- ・道徳の授業を作る際の考え方など今後やってみようと思える内容をたくさん教えていただきました。
- ・道徳の授業づくりについていろいろ教えていただけて良かったです。授業の展開についてや評価について詳しく知ることができ明日からの授業に生かせそうだなと思いました。
- ・評価のことがよく分かった。
- ・道徳の具体的な評価、その視点を学ばせていただきとても実践的な内容でした。もう少し交流の時間があればと思いました。
- ・グループ討議の時間がもう少しあるとよかったです。
- ・本当に実りのある研究討議会だと思いました。



(郡)

- ・まだ道徳の指導に苦戦していたので、非常に勉強になりました。特に読み物教材について考察したのは初めてだったので、来年の実践に活かしていきたいです。具体的な資料等を用意していただき非常にわかりやすかったです。
- ・分科会は各小学校の取り組みがわかり、気軽に話せる環境でよかった。全体会に関しては、とてもわかりやすい説明でした。とても参考になりました。答えがないし、生き方もそれぞれの中、どう道徳の授業をしていくかという問題



に対して、答えが見つかったと思います。

- 小学校の教材でも、中学校で使えると思いました。道徳をほとんどしていないので、道徳とは何かというのがとてもよくわかりました。普段の行動が少しでも変わるような道徳ができれば…。
- 道徳の授業づくりや実際の授業づくり、ともに迷走していたので、とても勉強になりました。その時間でめざすゴールがぶれないように、教師が内容項目を理解するのが大切と身にしみました…。
- 道徳についても小中連携がとても大切だと思いました。わかりやすい話で、中心発問や教材の作り方のヒントが出てよかったです。
- 実際に考える事があり、グループで話し合うことができ、とてもよかったです。道徳の大事なところは何か、教材の特徴等を知ることができ、とても勉強になった。考え方を柔軟に持ち、教科書にとらわれないように作っていきたい。
- 道徳教育についてわかりやすく説明して下さり助かりました。「生き方」を子どもたちと共に考えていくということで、子どもたちと一緒に頑張りたいと思いました。
- とてもわかりやすかったです。道徳について、指導書ばかりではなく、自分でも考え、授業づくりしていきたいと思いました。
- 授業の組み立て方や発問の考え方、内容項目の大切さ等とても詳しく説明していただき、明日からの実践にとっても役立ちそうだと感じました。ありがとうございました。

(畑田)

- 友人との力関係や気持ちと行動のギャップ、正直さなど同じ文章でも様々なアプローチがあることがわかり、勉強になった。今回のように実践的な内容だったと思います。
- 道徳を考えるのにいつも1週間ぐらいかかりますが、いつも失敗と思うことばかりです。またがんばらうと思えるお話でした。
- 山下先生のおっしゃるとおり、みんなであーだこーだ言いながら考えることの方がいろいろ見えてくるものがあると思いました。
- 山下先生のお話を聞いて一つの教材でも内容項目によっては可能性が広がると感じました。また、横山先生の「たまごっち理論」は教材を分析する上で、とても参考になりました。
- ワークショップが楽しくできました、今後も続けてほしい。後はどう評価していくか、その方法の交流。
- 中学校も来年から教科化が始まりますが、非常に参考になりました。「年間35時間やらなあかん」など言っておられましたが、中学校ではすでに様々な取組みで使っており、「読みかえ」も必要になります。教科書も全部使う必要はないと思います。
- 「まどガラスと魚」のワークショップをしてみて、1つの教材でも様々な見方、考え方があるとわかりました。一人で考えるとかたよった見方になってしまうと思うので、様々な人と一緒に考えることも大切だと実感しました。
- 短い時間でしたが、小中でワークショップでの交流ができ、小学校の道徳の授業の実際のお話も聞けて有意義でした。道徳の授業をつくっていく際の様々な視点を与えていただきました。
- 今後「学校段階」によりどのような指導に留意されているのかを連携担当の方などで交流をしていただき、授業研の質を上げてもらいたいです。

次年度に向けて、保幼小中でもっと連携したほうがいい取組や組織

- 人権の取組の連携（9年間のプログラム作り）⇒校区人研、協議員の合同会議
- 英語、教育心理、不登校、特別活動、平和学習、支援教育について
- 教科の連携をより密にしていけばよいと思います。
- 引き続き交流を続けていきたいです。道徳もそうですが、教科を変えて交流もしてみたいです。
- 小中で、各教科で話したい。
- 来年も道徳をするのもいいかなと思っています。
- 道徳教育は今後も継続して取り組んでほしいです。
- 来年度から中学校でも教科としての道徳がはじまります。今日の話全体を共有できればいいなと思います。
- 道徳が共通しているので、道徳の授業を一緒に作って、それを研究授業にしてみてもいい。その時に子どもへの見方、考え方を共有されていくと思うので。いずれは教科で。
- 連携した内容を校内ごとできちんと交流できるような取組みと時間確保して頂けるとありがたい。
- 中学校へ入学した時の修得しておくべき最低知識を知らせてほしい。例えば、漢字は小3まで。算数は四則計算など。
- 教科の指導で中学は教科担当になり、専門的な観点で、どのような視点で説明しているのかなど、つながりを意識できるので、教科の授業交流をぜひ行ってもらいたい。

夏休みの合同研修会で、どのような交流会や研修会がいいか

- 小学校の総合、特活の取組の6年間の積み上げと中学校3年間の積み上げをつなげて、どう9年間の取組をつくり、どのような力を育むかを具体的に考えていく。
- 小中連携プログラムを具体的につくる。
- 授業づくりや学級経営についての悩みを共有できる場があればいいと思います。
- グループで座談会。
- 今年の夏休みのような研修がいい。各校の取組みや交流がどこまで進んでいるかよくわかりました。
- 人権課題（在日、障がい者、女性、部落差別、セクシャルマイノリティなど）
- 男女共生、障がい者理解等、子どもたちへ返すことのできる話、内容を深めたい。カリキュラムに入っているし、出会いをつなげていくためにも、講師の先生とのネットワークをとっておきたい。
- 道徳などは全職員で考える事柄なので、分かりやすいが実際多くの授業数がある教科を望みます。

合同授業研の内容や時期について

- 中学校は、11月下旬～12月にかけて成績処理で大変な時期なので絶対に外してほしい。時間にゆとりがないとミスにつながる。
- みなさん忙しすぎると思います。
- 内容、時期について、とても良い。• この時期でよい。
- 時期としては、行事等もあるので、この時期になるかなと思います。
- 実技教科もやってほしいです。
- 11月末は成績処理が大変な時期なのでやめてほしい。
- 討議の柱が無ければいたずらに時を使う、参加する側にも何が当日話される資料があればと思う。